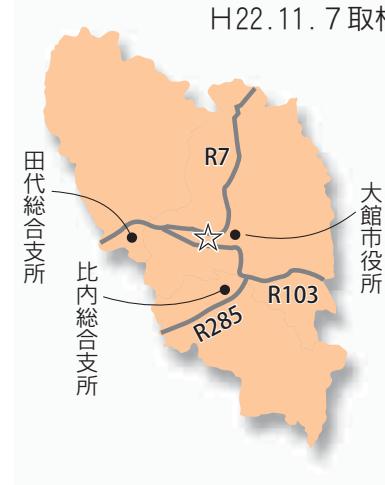


歩いて会って何でも話す  
ワクワクの突撃取材



# あつべ ゲット63 市民の皆さん たくさん登場

☆今回訪ねたのは  
「秋田弁と昔話を楽しむ会  
十周年の集い」  
H22.11.7取材



**早**いもので、今年も残すといつも1ヶ月余り。1年…あつという間ですね。さて今回は、中央公民館で開かれる「秋田弁と昔話を楽しむ会十周年の集い」に突撃取材! 会の発足10年の節目を記念して開かれ、会員のほか小中学生、高校生も語り手として登場すること。秋田弁でどんな語り口を披露するのか、聞いてみよー。

楽しむ会は、情感あふれる秋田弁と心を育む言葉が詰まつた民話を若い世代に語り伝えていくこと、平成12年に発足。会員数は50人、月1回の定例会のほか生涯学習フェスティバルでも秋田弁で民話を披露しています。「よく来てけだんすな!」じっくり聞いてたんせ」と書いためぐりをめくつて、いよいよ演目開始。語り手が秋田弁で「むがーし、むがし(昔昔)」。と話し始める

と、参加者はじっくりと聞き入り、時折笑い声も。最後に「どつとはれ」で終わる

と、大きな拍手が送られています!  
もりある語り口で「寒竹の  
子」を披露したのは、成章中  
学校3年の五十嵐愛恵さん(葛原)。

「方言は大事な文化」と愛恵さん

**温**いのちの温ぬくもりを語る秋田弁。成章中の五十嵐愛恵さん(葛原)。

調べようと思って、この会の会長さんに相談したんです。その時に誘われて、おもしろそうだから出てみようかなって。ちょっと間違ったけど、上手に話せました」と愛恵さん。ところで、話の

「秋田弁って本当にいい  
ですよね」と和子さん



「学校の『調べ学習』で、東北の民話を  
伝い、忙しい日々を送っているとのこと。「退職年齢に近くなってきたし、機会があればいろいろと出歩きたいですね」と、最後はきれいな共通語(?)で話してくれました。



会場にはたくさんのかたが詰め掛けました